

副専攻名 環境共生

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

環境共生の実現に貢献できる人材を育成するためのカリキュラムを準備している。人文社会科学と自然科学の両者にまたがる分野横断型の科目を履修する事で、自然と社会を総合的に理解できるよう工夫している。

副専攻の学修成果

実践性を育成するために、地域というフィールドを意識した科目を充実させているので、自然と社会の両分野にわたる幅広い知識と、両者の関係を総合的に理解する能力が養われる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学修目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
35704	環境共生基礎論	日本や世界の自然環境や環境資源の基礎論を理解し、環境を取りまく諸問題やそれに対応する社会動向を理解する。	2				
35722	環境経済論 I	自然資本と人工資本の関係を理解し、エコロジー経済学を学び、共進化の観点から環境問題を理解する。	2				
35723	環境経済論 II		2				
35724	農業経済論 I	戦後日本の農業農村の概史から農業産業としての農業が抱える様々な課題に関する理解を深める。	2				
35725	農業経済論 II		2				
35726	環境経済政策論 I	(1)今日の代表的な環境問題の概要を説明できるようになる。 (2)環境問題について、環境－経済構造上の要因を分析し、環境政策を組み立てることができるようになる。 (3)環境問題に対し複数の視点で分析し、統合的な政策を志向するすることができるようになる。	2				
35727	環境経済政策論 II		2				
35728	農業政策論 I	農業を巡る諸問題や政策を批判的に検討できるよう、農業と総山村について理解を深める。	2				
35729	農業政策論 II		2				
35730	栄養生理学 I	糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンの栄養的意義や三大栄養素の代謝、病態時やスポーツ時の栄養摂取等について修得し、基礎的な栄養管理ができるようになる。	3				
35731	栄養生理学 II		3				
35732	食環境学 I	食環境における基礎的知識として、食品に含まれる栄養素、おいしさ、食品の生体調節機能、食品表示の見方などについて理解する。	2				
35733	食環境学 II		2				
35736	自然環境と社会 I	自然環境に対する人間社会の影響と、人間社会に対する自然環境の影響のそれぞれについて、基礎的な知識を習得する。	2				
35737	自然環境と社会 II		2				
35734	自然環境基礎論 I	日本と世界の自然環境・自然地理に関する基礎的な知識を取得する。	2				
35735	自然環境基礎論 II		2				
35738	自然環境論A	自然環境変動、地生態学など、取り上げられた自然環境に関するトピックに関する基礎的な知識を習得するとともに、自然環境に関する関心を深める。	2				
35739	自然環境論B		2				
35744	防災・減災と地理学	自然災害と地理的環境との関係性について理解する。	2				

副専攻名 環境共生									
副専攻のCP(カリキュラム編成方針)									
環境共生の実現に貢献できる人材を育成するためのカリキュラムを準備している。人文社会科学と自然科学の両者にまたがる分野横断型の科目を履修する事で、自然と社会を総合的に理解できるよう工夫している。									
副専攻の学修成果									
実践性を育成するために、地域というフィールドを意識した科目を充実させているので、自然と社会の両分野にわたる幅広い知識と、両者の関係を総合的に理解する能力が養われる。									
副専攻を構成する科目									
科目番号	授業科目名	学生の学修目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4		
35745	流通・消費論	様々な地域に存在する多様な資源が、複雑な・多岐に渡る地域や関係者、システムを通して流通・普及する様子に注目し、需要者に消費されるまでの過程や構造と、そこで取り組まれている工夫や残されている課題について考察することができるようになる。地理学的な研究に注目することで、「地域」を見つめる大切さへの意識を高め、研究の視点や手法についても理解を深めることで、将来各自が行う卒業論文での地域調査に必要なスキルの習得の足がかりとする。	2						
35746	地域資源活用論	モノや自然環境、人材、生活文化や歴史など、地域が有する資源を活用し、より豊かな生活創出、優位でかつ持続的な産業活動や地域形成、教育・文化的活動、マーケティングやブランド化、認知行動などを検討していくための考え方、取り組み方や、その際に課題となる点などを学ぶ。地理学的研究の特徴や手法を先行研究を用いた事例紹介から学び、卒論作成に必要な地域を観察する技能を身につける。地域資源についてパンフレット・紹介マップを実際に作成し、報告・検討をする機会を通じて、標的市場や人々に効果的に情報を伝える技能を身につける。	2						
35747	農村計画論Ⅰ	農村計画と社会的な背景の有機的な構造について理解する。	2						
35748	農村計画論Ⅱ		2						
35749	生態系サービス基礎論	生物多様性と人間社会の有機的な構造について理解する。	2						
35750	環境形成戦略論	わが国の環境保全の将来について総合的に考察する。	2						
35751	環境思想Ⅰ	授業の各回で取り上げる思想や概念を適切に理解し、それを現実の環境問題解決に向けて応用できる力を身につける。これを通じて、理念目標に関する理解を深め、思考力を養う。	2						
35752	環境思想Ⅱ		2						
35753	環境政策論Ⅰ	様々な環境問題の特徴を理解し、環境政策の形成から実施にいたる過程を理解すると同時に、そのガバナンスの構造を適切に把握し、分析できるようになる。	2						
35754	環境政策論Ⅱ		2						
35755	環境教育	この科目の履修を終えたときに、次のことができるようになる。環境教育の定義、目的、目標、成果、役割を説明できる。環境教育プログラムのデザイン過程を理解できる。短い環境教育プログラムをデザインし、実施できる。	2						

副専攻名 環境共生

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

環境共生の実現に貢献できる人材を育成するためのカリキュラムを準備している。人文社会科学と自然科学の両者にまたがる分野横断型の科目を履修する事で、自然と社会を総合的に理解できるよう工夫している。

副専攻の学修成果

実践性を育成するために、地域というフィールドを意識した科目を充実させているので、自然と社会の両分野にわたる幅広い知識と、両者の関係を総合的に理解する能力が養われる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学修目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
35756	環境コミュニケーション	環境コミュニケーションとは何であるかを説明できるようになる。いつ、誰が、どこで、どのように、誰に対しておこなっているのか、またはおこなえるのかを考えられ、述べられる。それが社会で果たしている役割を認識、評価できる。また、端的な環境コミュニケーションを実際にデザインし、実施できるようになる。	2				